

臨床研修修了にあたり

臨床研修修了にあたり

歯科総合診療部 高田 寛子

2015年度臨床研修Aコースで研修歯科医としてお世話になっております、本学45期生の高田寛子と申します。今回“臨床研修修了にあたり”という原稿を書く機会をいただきましたので、この1年間を振り返ってみたいと思います。

1年というのは本当に早いもので、今年の今頃は国家試験を控え、毎日図書館に通っていた日々が信じられないくらいです。無事に歯科医師国家試験に合格し、4月から研修生活がスタートしたわけですが、研修医1人当たり25人前後の患者さんが配当された時、やる気に満ち溢れたというよりは、不安が大きかったのが正直な気持ちです。学生時代の臨床実習以来、臨床から離れていたこともあり、受験勉強で備わった知識はあろうと、実際に診療できるのか不安でした。

他の研修施設では4月はもとより、研修数カ月経っても、指導医の先生のアシストや、診療の一部分を担当するのみという話を耳にします。ですが、このAコースでは、4月から配当された患者さん一人一人の治療計画を立て、治療が始まります。そのため、どこの研修医よりも歯科医師としての自覚や責任感をいち早く感じたことと思います。経験不足な私たちでも、指導医の先生方は、一から診療を任せてくれます。その際、しっかり監督して下さり、手数不足の際でも、術者交代することなく、アドバイスをいただきながら最後まで治療をこなします。また、疑問なことには丁寧かつ的確に答えてくれます。先生方に質問しやすい環境が、私たち研修医にはとてもありがたかったです。

毎日の診療で、教科書で学んだことが全てではないと強く実感しています。その度に悩み、考え、それに対し指導医の先生方からの的確な御指導

を受け、次回からはもっと上手くできるようにしようと、様々な症例で経験を重ねました。1年経った今でも、診療毎に、新たな課題が増えていき、日々勉強だと感じています。思うような診療ができない時も、同じような悩みを持つ同期がいたおかげで、1年を終えることができたとも思っています。相談し、励ましあえる存在が近くにいることは心の支えでした。新年度から、それぞれ新たな場所での勤務となるため、離れてしまうことがとても寂しいです。

同期のみんなに限らず、藤井先生をはじめとした指導医の先生方、医員・レジデントの先生方にもたくさん助けられ、無事に1年間の研修を修了することができたと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。

まだまだ知識の面でも、技術の面でも1人前の歯科医師には到達できておりませんが、この1年で経験したことを糧に、これからも精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。



研修医控室にて（筆者：前列右端）

研修医修了にあたり

歯科総合診療部 児玉匠平

この度は歯学部ニュースの執筆を賜りまして恐縮しております。この原稿を執筆している現在は2016年1月です、ちなみにおみくじは大吉でした(笑) 研修も残すところ3ヵ月弱となりましたが、まだ3ヵ月もあるのか!と思うほど日々充実し、バタバタと診療室をかけずり回っています。学生の皆さんは日々の勉強でなかなか研修先について考える暇がないでしょうが、偶然にもこの記事を読んでいただけた方々に少しでもお役に立つよう、私が選択したBコースの良い点と、研修内容を書こうと思います。

研修先を決めるにあたってまず大学か一般の開業医の大きく2つに分かれますが、Bコースはそのどちらも経験できる点で非常に有意義なものとなります。自分でもう半分の施設を選べるというのは今考えると非常に重要なポイントです。開業医に行って僕のように専門分野以外を補う事も出来ますし(実際補って余りあります) 病院の口腔外科に行くこともできます(半年だけ苦手な口腔外科に行くのも考えました)。Bコースの半年ずつでは短すぎてどちらも中途半端になってしまうのではと少し危惧していましたが、半年でも1年でも自分次第でいくらかでも充実したものに出来ると思います。後半の今は開業医にいるので時間のメリハリが非常にはっきりしていますが、今思うと前半の大学は隙間時間で休憩ばかりとっていて怠けていたかなーと反省しています。

私は前半を義歯診療科で、後半を群馬県の利根保健生活組合・利根歯科診療所という場所で研修しています。初めに義歯診療科で経験したことを列挙しますと義歯新製・修理を中心に、FMC・ブリッジ、抜歯、CR充填などなど補綴症例を中

心に6ヵ月とは思えないほどたくさんの症例を担当致しました。僕は技工もしたかったので技工室にいる時間がとても長かったのですが、周りには大学院生の先輩方や医員、教員の先生方がいるので分からないことはすぐに質問できましたし他愛もない話しなんかもして私にとっての憩いの場でした。補綴の奥の深さの入り口にすらまだ立てていないほど勉強不足ですが、そのやりがいを体感することができ、じっくりと補綴に向き合えた半年間でした。

次に利根歯科診療所は総勢約40名の勤務する大きな診療所で、1日の患者さんの数も多いので数え切れないほどの処置をさせてもらっています。う蝕・歯内療法・スケーリングから抜歯・インレーの形成など様々です。決して無理な症例は渡されず段階をおって配当されるので安心でした。大学の時とは違い場数を踏むことができる事に加え、メンテナンスまでの長期的な患者様とのお付き合いや急患の対応、経営に関する事まで多くを学んでいます。

この研修で幅広く学ぶことができ、自分のなりたいた将来像が少し見えてきました。歯科医師人生の出発点としてはこれ以上ない恵まれた環境でしたし、ご指導いただきました先生方や衛生士・事務の皆さん、刺激をくれた同期の皆には感謝の気持ちでいっぱいです。



クラフトビールの陣にて (筆者：左端)